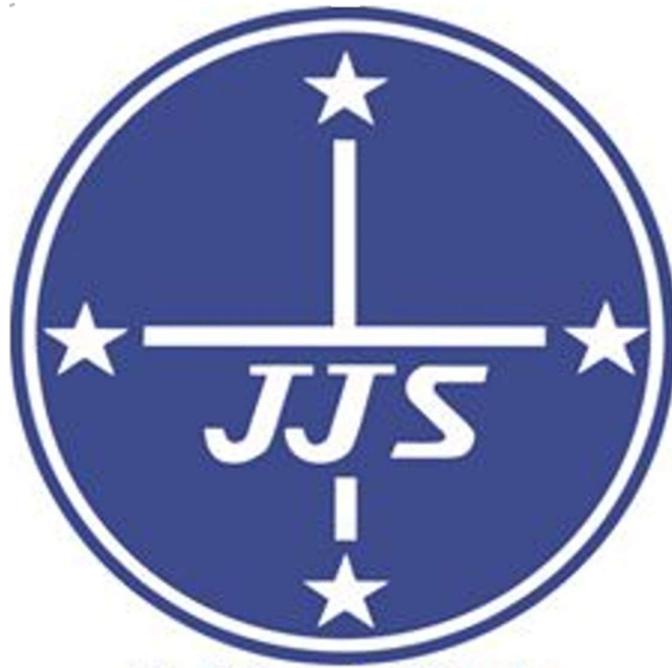


令和4年度入学生

ジャカルタ日本人学校
中学部入学説明会



令和4年2月8日（火）

会 次 第

- 1 はじめの言葉
- 2 校長挨拶（校長 緒方 克行）
- 3 中学部説明（中学3年生）
- 4 中学部説明（中学部教務主任 森 迪直）
- 5 教育相談コーディネーターより（加藤 裕章）
- 6 質疑応答（中学部教頭 中村 聡子）
- 7 おわりの言葉

1 学校教育目標

心豊かでたくましく、主体的に生きる子の育成

- ・よく考える子
- ・思いやりのある子
- ・体をきたえる子
- ・世界に心をひらく子

今年度テーマ： つながる <友達とつながる 学びとつながる>

2 中学部運営方針

「責任ある自由」を具体化し『自ら人生を切り拓き幸福な生涯を実現するとともに、
グローバル社会で活躍できる人財※の育成』

※生徒は日本・インドネシアにとって大切な宝であり、かけがえない財産という意味を込めて財の字を使用

- ・子どもの教養を高める
→基礎・基本の徹底、家庭学習の習慣の定着（課題の提示）、読書指導の強化
- ・生徒同士、生徒と教師、保護者と教師の豊かな人間関係の構築
→毎日の生活記録ノートの活用、教育相談月間の設定、道徳の時間の充実

3 学習面

(1) 10教科の学習

- ◎国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭、外国語（英語）、道徳
- ◎総合的な学習の時間（インドネシア語学習を含む）、特別活動（学級活動・生徒会活動）
- ◎英会話（毎週1回：本校独自設置）

(2) 教科担任制

小学部では一部教科で専科授業が行われていましたが、中学部は教科ごとに授業担当者が変わります。

(3) 定期考査の実施（年5回）

教科書の単元毎にテストを行っていた小学部とは異なり、実施時期を定め、指定した試験範囲から出題する定期考査を実施します。定期考査前には、授業時間内に生徒全員を対象とした質問教室を実施しています（各考査前に2時間）。

(4) 評価・評定について

①観点別評価について

各教科においては、中学校学習指導要領に示された目標に照らして、その実現状況を観点ごとに評価した点数により観点別評価を『A・B・C』の3段階で表します。

A → 「十分満足できると判断されるもの」	達成度：80%以上
B → 「おおむね満足できると判断されるもの」	達成度：80%未満 40%以上
C → 「努力を要すると判断されるもの」	達成度：40%未満

②評定について

評定は、各観点の合計点をすべて合計し、その得点に対し何%達成できたかにより評定します。評定は、『1・2・3・4・5』の5段階で行います。

5 → 「十分満足できると判断するもののうち、特に高い程度のもの」	達成度：90%以上
4 → 「十分満足できると判断されるもの」	達成度：90%未満 80%以上
3 → 「おおむね満足できると判断されるもの」	達成度：80%未満 40%以上
2 → 「努力を要すると判断されるもの」	達成度：40%未満 20%以上
1 → 「一層努力を要すると判断されるもの」	達成度：20%未満

③評価の方法について

授業中の取り組み（発言等）、ノートの内容、小テスト、定期考査、レポート、提出作品、実技テスト、実験観察記録、ワークシート、宿題等の提出状況等により、総合的に評価します。

(5) 実力テストの実施（年2回）

数千人規模の実力テストを実施することにより、それまでの学習内容の定着度をはかるとともに、客観的な評価を得る機会としています。志望校合格可能性の判定も中1から情報提供します。

(6) 進路指導の充実

外部講師によるキャリア学習（全学年）、日系企業受入れによる職場体験学習（中2）

※今年度はオンラインでの実施

日本全国の私立・公立校受験への対応（中3）、受験報告会（全学年）の実施

(7) 生徒会活動の充実

全生徒が何らかの委員会に所属し、一人ひとりが生徒会のメンバーとして責任ある役割を担います。※令和2、3年度は生徒会の活動は行っていません。2学期より委員会のみ活動を開始

(8) 総合的な学習の時間を活用した現地校交流活動（インドネシア理解）

小学部から引き続き各学年現地校と交流（年1回）しています。また、学部全体で本校創立初期より数十年の歴史をもつ「日本インドネシア友好親善スクール」を行っています。

※令和2、3年度は実施しておりません。

(9) 学校行事

体育祭、JJS フェスティバル等、中学部が中心となって活動します。リーダー性の育成をめざしています。

※今年度はオンラインでのJフェス、活動内容を精選した「ふれあいフェスティバル」を行いました。

4 生活面

J J Sは日本の学校のような細かいルールは定めていませんが、全生徒が安全かつ安心して生活を送れるように最低限の決まりを作っています（最初の学部朝会で生徒に示しています）。

(1) 不要物の持ち込みはしない

学校生活（学習）で必要のないものは校内、バス内に持ち込まないというルールを設定しています。
（例：マンガ、トランプ等のカードゲーム、携帯音楽プレーヤー、カメラ、お菓子アメガム等）

(2) 携帯電話、貴重品の取り扱い

携帯電話の校内への持ち込みを許可していますが、下校までは必ず昇降口のロッカーに入れるようにしています（教室には持ち込まない）。貴重品も同じ扱いです。※ロッカー用の鍵（南京錠）を全員用意してください。

(3) 中間食の扱いについて

令和2年度より、中間食は実施しておりませんので、朝食は必ず家で食べるようにしてください。

(4) 保健室の利用について

体調がすぐれない場合は、1時間を限度として保健室で休養をとることができます。それでも体調が戻らない場合は保護者の方のお迎えをお願いします。感染症の流行を防ぐため、学校からの連絡があった場合には、速やかなお迎えにご協力ください。

JJSのホームページに学校再開ガイドラインが掲載されております。体調不良時の欠席、早退については、そちらでご確認ください。

(5) スクールバス下校について

「不乗車届」は自分で提出します。乗車か不乗車の判断は自分で行い、その責任も負います。中学生が基本的にバスリーダーとなります。下級生の手本となるように責任をもちましょう。

(6) その他

中学部に入ると、思春期にさしかかり人間関係のトラブルや悩みを抱えます。また、保護者に対して反発したり、学校での出来事を話さなくなったりします。しかし、思春期特有の失敗や挫折を乗り越えながら子どもは成長していくものです。私たちは子どもたちの様子をしっかりと見守り、その成長を見届けていきます。

<生活面の課題>

- ・学級内のトラブル
- ・公共物の破損
- ・家庭での学習不足
→漢字・計算ドリルや音読など小学校と同じような毎日の決められた宿題はほとんどありません（自学自習の習慣化が必要）。ただし、教科ごとに宿題を出しています。
- ・時と場に合った言葉遣いや服装に課題があります。
- ・不要物の持ち込み（校内、バス内）→携帯電話で音楽を聴く、メールをする、マンガを読む
- ・不乗車届の出し忘れ
- ・携帯電話などの取り扱いによるトラブル
 - 例) 写真や動画の投稿
 - 例) SNSでの悪口
 - 例) IT機器依存

※思春期特有の課題は日本の学校でも見られる事です。保護者と学校が連携しながら、子どもの健全育成を図っていくという想いで生徒に対していきます。

5 学用品等

- ・裁縫セット
- ・アルトリコーダー（バロック式、ジャーマン式とも可）
- ・英和辞典、和英辞典、国語辞典、漢和辞典（電子辞書可）
- ・書道用具
- ・短パンやハーフパンツ（ジャージ素材）、屋内用運動靴、水着
- ・式服（白シャツに黒・紺等の長ズボンやスカート、日本の中学校の制服でも可）
→入学式、卒業式、合唱コンクール、大使館訪問、国会訪問などで使用しています。
※他の学用品（ソプラノリコーダーや絵の具セット等）は、小学部で使用していたものを引き続きお使いいただけます。
- ※A4フラットファイルがあると便利です。教科ごとにプリントやワークを使った学習が多いです。
ジャカルタでは紙製フラットファイルの入手が難しく、比較的高価です。

6 令和4年度 入学式

日 時	令和4年4月13日（水）
会 場	本校中学部体育館
時 間	7:30 ～ 7:45 新入生受付
	7:45 ～ 9:00 学級活動
	9:00 ～ 9:45 入学式
	9:45 ～ 10:00 写真撮影
	10:00 下校

※当日はバス配車がありません。自家用車での帰宅をお願いします。

入学手続きについて

小学部より引き続き入学の生徒の皆様は、特別な手続きはありません。

本校小学部以外からの入学の生徒の皆様は、本校ホームページからのお申し込みを経て手続きを進めてください。